

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原小学校	学校 No.	2 1
-------	-----------	--------	-----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、『児童の優れた個性を伸ばし「美しい心と 夢と たくましく生きる力」を持つ萩原の子を育てる』を教育目標に、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざしている。

例年、福祉教育について、さまざまな体験活動や交流を通して、「福祉の心」を育てることをねらいとした実践活動を行ってきた。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、地域でのボランティア活動や、お年寄りとの交流会等が全く行えない状況になった。そこで、5年生対象に福祉教育に力を入れ、福祉社会実現への礎を築いていこうと考えた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 5年生総合学習「ともに生きる」（1学期）～福祉について考える～

ガイダンスとして「福祉」に触れ、自分たちの興味や関心に応じて調べ学習を進めた。児童が調べた概要は以下の通りである。

・手話 ・車いすの介助 ・盲導犬の生活と訓練
 ・義足の歴史 ・点字 ・点字ブロック など



ガイドヘルプ体験

(2) 5年生総合学習「ともに生きる」（2学期）

① 福祉実践教室

「車いす体験」「手話の体験」「視覚障害者ガイドヘルプ」の3教室について講師の先生に来ていただき、福祉実践教室を行った。体験を通して、体の不自由な人にどのように接していけばよいかを学び、その苦労や大変さを実感することができた。



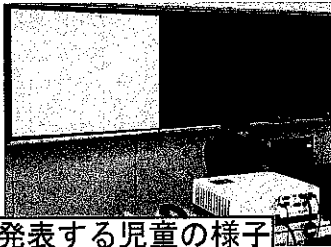
車いす体験をする児童

② 福祉と共生について考える

福祉実践教室での実体験を経て、児童たちはそれぞれのテーマをより追究していくことにした。調べ考えたことを児童相互に意見交換し、各児童が「自分にできる福祉」について追究、発表することができた。



調べたことを意見交換する児童



発表する児童の様子

【児童がまとめた例】

- ・点字は様々なところに使われており、便利に使えるような工夫がされていることが分かった。
- ・手話を覚えることができたなら、私もいろいろな人と会話できるなど思った。
- ・福祉の学習で、一人一人が助け合うことの大切さを考えることができた。

3. 福祉教育の成果と今度の課題

福祉実践教室や調べ学習を通して、いろいろな立場・状況の人がいることや、誰もが一人ではなく共に生きていることを実感できたと思う。子どもたちが活動を通して学んだことを、体験や知識で終わらせず、社会の一員として、社会のために行動していこうとする態度や意識を今後も継続して高めていきたい。

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中島小学校	学校 No.	22
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標
お年寄り、体が不自由な方や地域の方との交流を通して、自分たちに何ができるかを考えることで、豊かな心を育成する。

(2) 計画
特別養護老人ホームや地元老人会のお年寄りとの交流、あいさつ運動、運動会や学習発表会へのお年寄りの招待、各種募金活動、学校畑での栽培収穫活動など

(3) 推進体制
福祉推進委員会を組織し、具体的な活動の計画・立案等を検討して推進していく。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室（6年生：6月）
6年生全員が、「車いす体験」「手話体験」「点字体験」を行った。また、車いすを使用している方や耳が聞こえない方、目が見えない方の話を実際に聞いて、福祉に関する意識を高めた。

(2) 特別養護老人ホームのお年寄りとの交流（3年生：中止）
施設を訪問して、歌や楽器の演奏をしたり手紙やペンダントをプレゼントしたりする活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(3) 地元老人会のお年寄りとの交流会（1年生：11月）
地元のお年寄りからコマまわしやけん玉など昔ながらの遊びを教えてもらい、交流した。

(4) 募金活動（全校児童、保護者、教師：5月～2月）
緑の募金、赤い羽根共同募金を実施した。

(5) 学校畑での栽培収穫活動（全校児童、教師：4月～12月）
タマネギやジャガイモの苗植えや収穫を、地域の方の協力のもと、全学年で実施した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

- ・ 6年生の児童が車いすの体験を行い、「車いすって、こんなに大変なんだ。」ということを体感することができた。また、手話や点字の体験も行ったので、体の不自由な方の苦労を十分に理解することができた。そして、体が不自由な方の話を聞き、福祉に関する意識を高めることができた。
- ・ 様々な体験学習を通して、体が不自由な方やお年寄りは、生活するうえで多くの不便があることを理解することができた。また、多くの活動を通して思いやりの心が育ち、福祉への関心が着実に高まってきた。
- ・ 世界には困っている人が多くいることから、児童会や委員会を中心に募金活動を行った。一人の力は小さいが、みんなで協力すれば困っている人の力になることを学んだ。
- ・ 障害の有無や社会的弱者などへの偏見にとらわれず、人と人々が楽しく助け合って生活できるように、今後も積極的に交流活動に取り組んでいきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 3 年度一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	千秋小学校	学校 No.	23
-------	-------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

【目標】

福祉実践教育を通して、ユニバーサルデザインについて考えさせることにより、福祉についての関心を高めさせる。

【計画】

- ①ユニバーサルデザインについて調べさせる。
- ②障害をもつ人の生活について考えさせる。
- ③5年生と交流しながら、福祉の大切さについて学ばせる。
- ④ユニバーサルデザインについてまとめさせる。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

計画していた福祉実践教室を行うことはできなかったが、ユニバーサルデザインについて考えられるよう、総合的学習の時間を使って、学ぶ場を提供することができた。

授業では、ユニバーサルデザインという言葉や福祉についての意味を考えさせる時間を5年生の授業において設定した。ここでは、様々なユニバーサルデザインの活用の仕方があることを新聞記事から個別に見つけさせることができた。

これらの取組により、福祉に対する関心を高めさせることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年のような福祉実践教室を行うことはできなかったが、工夫をすれば、総合的学習の時間で福祉について学習できることがわかった。

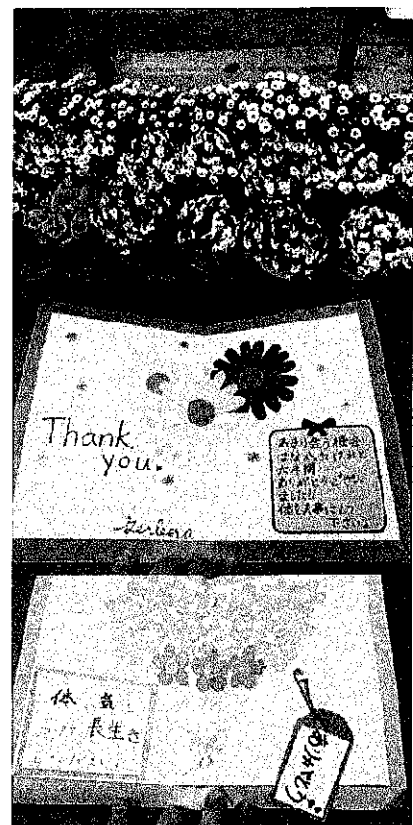
児童の自発的な活動の支援を続け、今後も福祉教育がさらに児童の実態に即したものになるように、計画の見直しや修正を進めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立千秋南小学校	学校No. 24
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）		
(1) 目標		
本校は、「心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を持って、未来を拓く千南っ子を育てる。」を教育目標に日々の活動に取り組んでいる。豊かな心を持たせるために、6年生を中心に以下の目標を定めた。		
社会福祉についての関心を高め、福祉についての実践力を育む。		
(2) 計画		
① 福祉実践教室 ② 老人福祉施設訪問 ③ 人権週間 ④ ボランティア活動		
2 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）		
(1) 福祉実践教室		
今年度の福祉実践教室は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1学期の開催を中止すると連絡が入り、体験は行わなかった。		
(2) 老人福祉施設訪問		
今年度の老人福祉施設訪問は、新型コロナウイルス感染の影響を受けて、学校と施設との話し合いの結果、行わないことになった。		
お年寄りに何かの形で元気を届けることはできないだろうか話し合いを進めた結果、プレゼント用として花の苗を購入し、水やりなどの世話を続け、春に老人福祉施設に届ける活動を行った。同時に、画用紙や色紙を使い、お年寄りが喜ぶ顔を思い浮かべながら、メッセージカードを心を込めて作成し、届けることができた。		
(3) 人権週間		
11月22日（月）に、人権週間の取り組みとして、児童会役員主催の人権児童集会を行った。校長から「人権週間」について講話があり、その後児童会からのメッセージタイムが行われた。児童会役員による紙芝居の読み聞かせでは、一人一人かけがえのない命を大切にしていこうというメッセージを全校児童に伝えることができた。		
11月24日（水）には、毎年恒例の「せんなんのわ」を作った。		
「せんなんのわ」は、全校児童が学年の壁を越えて、同じ誕生日の友達や誕生日が近い友達を知り、友達の輪を広げることが目的である。1月から12月まで月ごとに並んだ後は、日にち順に並ぶ。全校児童が誕生日順に並ぶことができ、大きな「せんなんのわ」を運動場いっぱいに作ることができた。その後、ペア学年に贈る「寄せ書き」の交換を行った。お互いのことを大切に思い、いじめのない明るい学校にしていきたいという思いを強くもつことができた。		
(4) ボランティア活動		
① あいさつ運動 ・登校した児童から児童玄関前に並び、あいさつをした。		
② 校内大掃除 ・学年で担当場所を決め、清掃活動を行った。		
3 福祉教育の成果と今後の課題		
人権教室やボランティア活動を通して、自分も友達も大切にすることや、ふわふわ言葉を実践することで、周りが幸せな気持ちになれることを体験することができた。これを機会に、困っている人には自然に手を差し伸べ、優しい言葉がけができる温かな人間関係を学校全体にさらに広げていきたい。また、福祉や人権について関心を高め、具体的な実践が広がっていくような場面や機会を学校生活の中に多く取り入れていきたいと考える。そして、全校の児童に、この活動の大切さを広げていきたい。		



令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立富士小学校	学校 No.	25
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み

(1) 目標

- ・思いやりを深める活動を通して、人を思いやる心を育む。
- ・自分たちに何ができるかを考え、実践することで、豊かな心を育む。

(2) 計画

- ① 人権週間の取り組み（11～12月・・・全学年）
- ② さわやか運動（全学年）あいさつの呼びかけ
- ③ 見守り隊の方々へのお礼の手紙（2～3月）

2. 福祉教育の具体的活動の内容

(1) 人権週間の取り組み

人権週間に合わせ、思いやり運動を行った。

- ① 人権擁護委員の方々をお招きした人権教室
低学年、高学年の二部制で行い、発達段階に応じた
お話や動画の視聴を通して人権に関する意識を高めた。
- ② 人権啓発を目的とした、道徳や学活の授業実践
- ③ 「ありがとうレター」
ペア学級児童が、ありがとうのメッセージを送りあう活動を通して、支えあって生活していることを意識させた。
- ④ 「思いやりチェックカード」による、振り返り活動
ふわふわ言葉を1日5回以上言えたかどうかを振り返り、相手を大切にする言葉遣いができていたか、意識できるようにした。
- ⑤ 思いやり標語の作成
全児童が参加して思いやりに関する標語を作成した。校内で選ばれた「大丈夫？その一言で 救える心」を印字したクリアファイルを「思いやりクリアファイル」として作成。思いやりの言葉を身近なものにできるようにした。

(2) さわやか運動

毎学期、生活委員会が中心となってあいさつ運動を行い、さわやかにあいさつができるように呼びかけた。

(3) 見守り隊の方々へのお礼の手紙

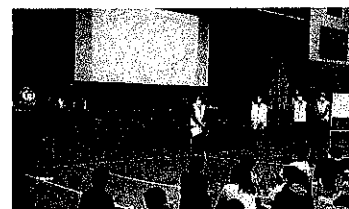
本校は、登下校時に150人近くの見守り隊の方に毎日見守っていただいている。そこで、3月に全児童で感謝を込めて手紙を書き、見守り隊の皆さんに届けた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

人権週間や、さわやか運動など全校での声掛けを行うと、子どもたちは素直に反応し、ふわふわ言葉を意識したり、あいさつの声が大きくなったりとよい変容を見せた。しかし、まだ、相手を思いやる心に欠ける行動や発言からトラブルになることもある。日頃の係活動や委員会活動、学級での活動など、学校の教育活動全体の中で、思いやりの心を育てることができるよう、取り組みを継続していく必要がある。



〈あいさつの様子〉



〈人権集会の様子〉

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校 No.	26
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） 目標：すてきな笑顔を広げよう ～末広小の児童、先生みんなを笑顔にしよう～ 計画：推進体制 委員会活動、総合的な学習、児童会活動の 3 つの柱で福祉教育に取り組んだ。 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） 【委員会活動】 代表委員会・・・ 人権集会 JRC 委員会・・・ 古切手回収、エコキャップ回収、赤い羽根共同募金、 ユニセフ募金、手足の不自由な子どもを育てる運動 生活委員会・・・ あいさつ運動 【総合的な学習】 学習発表会（3 年生、5 年生） 【児童会活動】 1 週間チャレンジ（にじプロジェクト） 3. 福祉教育の成果と今後の課題 児童が「気付き、振り返る」活動を実践してきた。古切手回収、エコキャップ回収、赤い羽根共同募金、ユニセフ募金等の呼びかけも意欲的に行い、より多くの人に協力してもらおうという気持ちで活動することができた。また、児童会が企画した「にじプロジェクト」では、全校児童の 1 人 1 人が似顔絵と「末広小学校の好きなところ」を書いて、1 枚 1 枚をつなげて虹を完成させた。愛校心を育てるとともに、参加の証を残すことで、福祉活動への参加意識を高めることができた。しかし、それぞれの活動がどのように福祉に貢献しているのか等、具体的に活動内容を理解している児童は少ない。今後は、活動と内容と福祉への貢献内容を明確に理解させ、さらに福祉への参加意識を高めていきたい。			

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市西成東小学校	学校No.	27
-------	-----------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に教育活動を進めている。

5年生では、「こころのバリアフリー～ぼく、わたしにできること～」をテーマとし、以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

目標 「ふ…ふだんの」「く…くらしの」「し…しあわせ」という、福祉の本質について理解を深め、学校、地域、家庭で自分に出来ることを追求し、実践する姿勢を養う。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉のまちについての学習

福祉のまちづくりに関する資料を用意し、障害のある人に対する施設や道具などについて学習し、身の回りにある福祉について関心を持たせた。

(2) 福祉体験

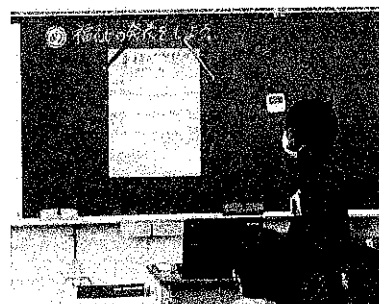
- ・車いす体験・・・車いすを必要としている方について調べたうえで、実際に車いすに乗り、車いすを使う人の気持ちやどんな手助けができるのかを学ぶことができた。
- ・ガイドヘルプ体験・・・目の不自由な方について調べたうえで、アイマスクをする立場とガイドヘルプをする立場に分かれて体験をした。目の見えないことの怖さやガイドヘルプの難しさ・大切さを学ぶことができた。
- ・手話体験・・・耳の不自由な方について調べたうえで、生活で困ることやできる手助けについて学ぶことができた。動画を見て手話を体験し、耳の不自由な人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができた。
- ・点字体験・・・目の不自由な方について調べたうえで、ひとりひとりが点字で名前や点字体験の感想を伝え、交流を図った。点字への理解が深まった。



(3) まとめの新聞またはスライド作り

総合的な学習の時間の福祉体験や調べ学習で学んだことをもとに、新聞またはスライドを作り、発表した。

学んだことをもとに、自分たちにできることを考えさせ、記入させることによって、福祉に対する気持ちを深めることができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は様々な立場の方の気持ちや生活の大変さを知ることができた。そして、自分たちがどう手助けをしたらよいのかを具体的に学ぶことができた。今後も、今回学んだことを忘れることなく、日常生活の中で障害のあるなしや年齢に関わらず一人一人が自分にできることを実践していってくれるよう、励ましていきたい。

令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢西小学校	学校 No.	28
-------	-------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標

- ・ 障害のある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。
- ・ 共生社会の構築に対し、主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。

(2) 計画

- ・ 福祉実践教室 ・ 福祉実践教室の事前・事後指導 ・ あいさつ運動
- ・ スポーツフェスタや学校祭への高齢者の招待 ・ ベルマーク等の収集活動
- ・ 各種募金活動

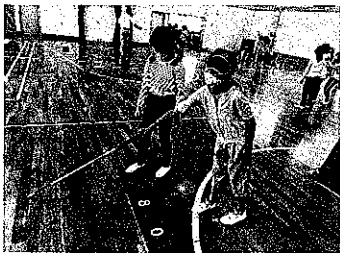
(3) 推進体制

- ・ 計画に該当する学年または児童会・委員会で、計画的具体的に推進する。
- ・ 4年生の総合的な学習において、「福祉」について学び、理解を深める。また、4年生にて、福祉実践教室を実施する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容

福祉実践教室

4年生が高齢者疑似体験とガイドヘルプの2つの講座に分かれて体験活動を行い、障害のある方への理解を深めることができた。また、まとめの新聞を作り白杖などの道具への理解も深めた。





(1) 高齢者疑似体験

体に重りをつけたり、視界が悪くなるメガネをつけたりして階段の上り下りをする活動を行った。活動を通して、高齢者の方々の体の動かしにくさを実感し、高齢者の方々への配慮と支援が必要であるという思いを持つことができた。

(2) ガイドヘルプ

アイマスクや白杖を使い、視覚障害者の方々の疑似体験やガイドヘルプの体験を行った。目が見えないととても怖いと感じるとともに、目が見えない人のために指示を出すことの大変さも学ぶことができた。

(3) 新聞作り

福祉実践教室で学んだことをもとに、障害のある方々の扱う白杖や車いす、盲導犬について調べ学習を行い、新聞にまとめた。まちで見かけた際に、手助けをしたいという感想を書く児童が多くいた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々への気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障害のある方々へ優しい手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。しかし、コロナウィルスの影響で障害のある方々の生の声が聴けず、実感がわかない児童も見られた。また、日ごろの生活を見ていると、仲間を思いやろうとする意識は個人差が大きいので、道徳や総合的な学習の授業でも人を思いやる心を育ていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、総合的な学習の時間に、みんなが住みよい社会とは、どのような社会かを福祉体験やお年寄りとの交流を通して、自分たちのできることを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

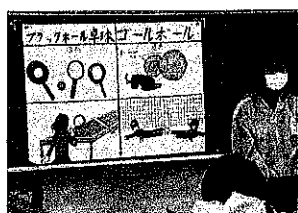
（1）福祉実践教室（5年生）

車椅子体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ、ボッチャ、および、福祉に関するDVDを視聴した。新型コロナウイルス感染症対策のため、あいにくボランティアの方に学校にお越しいただくことはできなかったが、zoomを使用してリモートでお話をうかがうことができた。活動を通して、児童は、それぞれの福祉を必要としている方の苦勞を知るとともに、ボランティアの重要性、助け合うことの大切さ、パラスポーツの意義等を実感することができた。



（2）学習発表会（5年生）

「ふだんの 暮らしの しあわせ」をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことか、点字・車いす・盲導犬・高齢者の介護等々、体験したことや調べたことをもとに、各自が自分の考えを模造紙にまとめ、リモートで発表した。発表会当日は、みんなが住みやすい町を作るために何ができるか、伝え方を工夫して発表することができた。また、発表の資料作成のために、調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしにあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



（3）手話を取り入れた朝の歌

新型コロナウイルス感染予防の観点から、大きな声で朝の会に歌を歌うことが困難であるため、手話を使ってその代わりとしている。初めは、曲に合わせて手話をするのは難しそうだったが、回数を重ねるうちに、抵抗なく取り組めるようになった。体を動かして言葉を伝えるということ、耳が聞こえない相手にも歌を伝えることができるということを面白いと感じる児童が多くみられた。

3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育は、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽吹いた福祉の意識をさらに高めていくためにも、相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶとともに、単発的な取り組みではなく継続的・発展的に取り組んでいく必要がある。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校 No.	30
-------	------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

ア 目標

本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。

イ 計画

- ① 「発見！かっこいいカード」の取り組み（通年）
- ② ベルマーク取集活動（7月・12月・2月）
- ③ 異学年交流【なかよしペア活動】（随時）
- ④ 人権週間（12月）

2. 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）

ア 「発見！かっこいいカード」の取り組み

『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「かっこよさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。

イ 異学年交流【なかよしペア活動】

6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生をペア学年として、週に1回、中間放課・昼放課に交流活動を行った。また、一鉢運動に取り組み、11月に卒業式に向けてパンジーを植えた。

わくわく交流会をグーグルクラスルームを活用して実施した。また、6年生を送る会もグーグルクラスルームを活用し、6年生の出し物を教室で視聴した。

ウ 人権週間

グーグルクラスルームを活用し、人権に関する校長の講話、児童会会長によるいじめ防止の呼びかけを行った。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度も、コロナ禍ということで、例年行っている社会福祉施設等での訪問活動や社会福祉体験活動を実施できなかった。また、その他の活動も、様々な制約を受け実施できないものがいくつかあった。

その中、グーグルクラスルームを活用することで、いくつかの行事を実施することができた。また、「発見！かっこいいカード」の取り組みにより、お互いの良いところを見つけ合い、児童の自己肯定感を高めることができた。

今後もコロナ禍でもできることを探していきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会web上に掲載させていただきます。また、可能な限り各校でもweb上（ブログ等でも可）に掲載してください。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中小学校	学校 No.	31
-------	------------	--------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

SDGsの目標3「保健」の分野に、「あらゆる年齢のすべての人々の 健康的な生活を確保し、福祉を促進する」とある。本校では、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとしている。本年度は、SDGsの内容とも関連させて、「総合的な学習の時間」や「特別の教科 道徳」において身近な福祉に目を向けた教育活動を展開した。

目標	・高齢者や障害のある人との交流を通して、互いのよさを認め合う。 ・福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を育てる。
----	--

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) N-1グランプリ（総合的な学習）の開催

・「コロナ禍の今こそ温かい笑いで学校を包む」ことを目標として教育漫才「N-1グランプリ」を開催した。漫才という誰でも知っている身近な題材を基に、人との「コミュニケーション能力」や「情報発信能力」を高めることをねらいとした。年齢や障害の有無を問わずみんなが楽しめる今回の企画は保護者や地域の方にも好評であった。本校の特別支援学級の児童も通常学級の友達と一緒に生き生きと活動をしていた。

(2) 福祉実践教室 → 本年度は未実施

・福祉に関する内容について「総合的な学習の時間」にインターネットを利用して調べ学習を行ったり、新聞記事の切り抜きで必要なニュースを集めたりして、朝の会などで発表した。

(3) 特別の教科 道徳

・3年生の【こまっている人がいたら】では、公共の場などで人にどのように接しているかと道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考えたり、相手に対する思いやりの行動や理由はさまざまであると考えたりする活動を通して、周りの人に対していろいろな言動があることを知り、自分にはどのような思いやりのある言動がとれるか自己の生き方についての考えを深めることができた。

(4) 募金活動

・児童会と代表委員が中心となって、積極的な募金活動を展開した。2学期の「赤い羽根募金」は、3日間実施し、多くの善意が集まった。また、発展途上国のワクチン費用に充てるためのペットボトルキャップ収集の呼びかけを児童会が中心となり、多くのキャップが集まった。

(5) 人権週間の取り組み

・各学級で担任による読み聞かせ（紙芝居・絵本等）を実施した。また、各学級のスローガンを考え、全校への発表を行い、その後各教室内に掲示した。いじめをなくすための標語づくりを全学級で取り組んだ。

3 福祉教育の成果と今後の課題

本年度はコロナ禍のため、様々な活動の取り組みが大変難しい状況であった。しかし、できる活動を通して、児童はお年寄りや障害のある人たちに対して自分たちができることは何かを考え手助けしたいという気持ちをどのように伝えたらよいかを学ぶことができた。今後も、年齢や障害のある・なしではなく、人が人としてどのように関わればよいのかをさらに考え、温かい交流を通して心豊かな人間になることができるように実践を進めていきたい。

令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋東小学校	学校No.	32
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）
 本校は、「知・徳・体の調和のとれた、未来を拓くたくましい児童の育成を図る」を教育目標に、「自ら学び自ら考える子」「自らを律し、他を思いやる子」「健康で、意欲的に活動する子」をめざす児童像として教育活動を実践している。日常の学校生活や道徳、総合的な学習の時間等を通して、福祉の心と実践力を持った児童の育成を目指し、福祉推進実践校として以下のように取り組んだ。

2. 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）

(1) 児童会活動を中心とした活動
 異学年交流として縦割り班によるなかよし清掃、また、ペア学年でチームを組んで行うわくわくフェスティバル等、上級生が下級生を上手にリードしながら活動を行う異学年交流を計画し、実践した。
 また、赤い羽根共同募金の活動や人権週間での呼びかけを行った。

(2) 福祉実践教室
 4年生児童が、10月1日（金）に社会福祉協議会の方々を講師に迎えて点字の学習会と高齢者疑似体験を行った。手助けの方法を考え、思いやりの気持ちを育てることができた。

(3) 地域の方々とのふれあい活動
 地域ボランティアや老人会の協力で、伝統文化等を体験することができた。

1年生…昔遊び
 2年生…町探検
 3年生…きなこ作り
 4年生…グラウンドゴルフ
 5年生…稲刈り
 6年生…しめ飾り作り



6年 しめ飾り作り

(3) 道徳の学習を通して
 道徳では、自他の生命を尊重し、他者や社会との関わりの中で、多様な価値を認めながら自分を見つめ直し、自分だからこその役割があることに気づき、勇気をもって行動することができる児童の育成を目指している。例えば、3年生の「ヌチヌグスージー命の祭り」では、たくさんに人から受け継がれてきた命を大切にしようとする態度を育てることができた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

ア 成果
 児童会活動を中心とした異学年交流等の様々な活動を通して、相手を思いやる心や人を敬う心を育てること、また、見守り隊やふれあい活動でお世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを育てることができた。

イ 今後の課題
 コロナウィルス感染症対策のため、これまでおこなってきた行事が中止になったり、縮小したりすることになった。お世話になっている地域の方々やお年寄りとの交流活動をどのように行っていくか考えていきたい。また、普段の生活の中で、子どもたちが進んで挨拶をしたり、言葉を交わしたりできるようにしていきたい。その中で、弱者を思いやったり、互いの良さを認めて協力し合ったりする心も育つと思われる。